

令和6年度総合型選抜 I / II グループワーク課題ならびに出題の意図

グループワークでは、複数名の他者と取り組む協働作業における発言や行動をとおして、筆記試験や個人面接では評価が難しい、チームの中でのコミュニケーション力や建設的な議論への貢献、目的の実現に向けたチームでの合意形成への貢献等を評価している。なお、本学は理工系大学であるため、活動の最終的な目的は、科学技術やエンジニア的な視点から設定している。今回、令和6年度選抜で出題した課題のうちの3つを公表する。

(課題1) デジタル化が遅れている仕事

- ▷ 社会の様々な場面においてデジタルトランスフォーメーション (DX) が推進されています。身の回りのいろいろな仕事がデジタル化される一方で、デジタル化されにくい仕事やデジタル化が遅れている仕事がまだまだたくさんあります。今回は、**デジタル化が遅れていると思う仕事をできるだけ多く挙げてもらいます。**その後、それらを分類し、整理してもらいます。
- ▷ このグループワークは、身の回りの仕事におけるデジタル化について考えることをとおして、**DXの推進にテクノロジーが貢献できることを考えるためのブレインストーミング**です。
- ▷ 身の回りでデジタル化されていない仕事について分類・整理した結果、気がついたことなどを報告してもらいます。

※ DXとは、情報技術の浸透を前提として、ものごとの「やり方」自体を大きく変えて、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させることをいう。

(出題の意図)

DXは仕事を単にデジタル化するだけでなく、働き方改革や民間および公的サービスの形態を含めて広範囲への影響が予測されている現状にヒントを得た出題である。労働人口の高齢化、人口の急激な現象など社会の未来に直結する問題に工学や情報工学はどのような貢献ができるのかということ、参加者が柔軟な発想を交わしながら議論を深めてもらいたいとの意図で出題した。

グループ活動の中で、身の回りに存在するデジタル化が遅れている仕事を分類し、それらの原因や特徴を考えることをとおして、現状考慮されていない機能やサービスの提供を実現する新たなテクノロジーや社会構築につながるような、まとめや気づきがあることを期待した。

(課題2) 宿泊施設の仕事

- ▷ 旅館やホテルなどの宿泊業は、多様な背景をもつ利用者をもてなすビジネスです。宿泊用の客室の管理以外にも様々な仕事があります。労働の担い手の高齢化や人手不足などのために新しいテクノロジーと効果的な人員の配置が求められています。今回は、**宿泊業でおこなわれる仕事について、思いつくものをできるだけ多く挙げてもらいます。**その後、それらを分類し、整理してもらいます。
- ▷ このグループワークは、宿泊業でおこなわれる仕事について考えることをとおして、**これらのお仕事をおこなうために必要な新しいテクノロジーを考えるための**ブレインストーミングです。
- ▷ 宿泊業でおこなわれる仕事について分類・整理した結果、気がついたことなどを報告してもらいます。

(出題の意図)

コロナ後の「インバウンド」が報道され、観光が大きな経済効果をもたらすことが期待されている。宿泊業はこの中でも中核の業種と考えられ、多様な文化を受け入れるホスピタリティやコミュニケーションが必要とされる部門から清掃、調理など様々な業種区分が混在する形態をとっている。また、宿泊施設は災害時や感染症拡大時の避難所の機能も担うなど社会的注目もあった。このような宿泊業においてサービスの提供が大きな課題となっている現状にヒントを得た出題である。多様な経験をしてきた参加者が工学や情報工学の観点からソフトおよびハードの側面での議論を深めてもらいたい意図で出題した。

グループ活動の中で、宿泊施設に関連したサービスに対する仕事を分類し、それらの特徴や存在理由を考えることをとおして、新たな仕事のあり方やテクノロジーにつながるような、まとめや気づきがあることを期待した。

(課題3) 日本の食料生産における諸問題

- ▷ 農林水産省の調査によると令和4年度の日本の食料自給率は、令和3年度とほぼ同様の38%でした。食料の安定供給のためにも食料自給率を上げた方がよいという意見をよく聞きます。しかし様々な問題もあり簡単には上がらない現状があります。今回は、**日本の食料生産に影響を及ぼす要因をできるだけ多く挙げてもらいます。**その後、それらを分類し、整理してもらいます。
- ▷ このグループワークは、食糧生産について考えることをとおして、**日本の食料生産に寄与する新しいテクノロジーについて考えるための**ブレインストーミングです。
- ▷ 日本の食料生産に影響を及ぼす要因について分類・整理した結果、気がついたことなどを報告してもらいます。

(出題の意図)

気候変動の課題や、労働力人口の不足・高齢化が課題となっている現状の農業問題にヒントを得た出題である。多様な地域・社会経験を経てきた参加者で社会的な知見を共有するとともに、具体的な課題を洗い出すことから工学や情報工学はどのような貢献ができるのかということを議論してもらうことを期待して出題した。

グループ活動の中で、身の回りの食料生産の課題を洗い出して分類し、それらの原因や特徴を考えることをとおして、食料自給率の向上に有効なテクノロジーにつながるような、まとめや気づきがあることを期待した。